

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

平成 29 年 1 月

○ 概要

（１） 平成 29 年 1 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,040 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲5.7%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,999 円（伸び率▲11.1%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,514 億円（伸び率 6.0%）、薬剤料が 4,516 億円（伸び率▲9.1%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 717 億円（伸び率 1.5%）であった。（→P.4）

（２） 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,454 円（伸び率▲17.1%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.88 種類（伸び率▲1.7%）、22.5 日（伸び率▲1.8%）、84 円（伸び率▲14.1%）であった。（→P.8,9）

（３） 薬剤料の多くを占める内服薬 3,661 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲504 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 796 億円（伸び幅▲86 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の 8 億円（総額 243 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,661 億円 (▲504 億円)	21 循環器官用薬 (796 億円)	11 中枢神経系用薬 (618 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (516 億円)
0 歳以上 5 歳未満	35.1 億円 (▲1.6 億円)	44 アレルギー用薬 (14.0 億円)	61 抗生物質製剤 (6.9 億円)	62 化学療法剤 (6.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	87.0 億円 (▲0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (32.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (15.8 億円)	61 抗生物質製剤 (10.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,288 億円 (▲184 億円)	11 中枢神経系用薬 (267 億円)	21 循環器官用薬 (241 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (191 億円)
65 歳以上 75 歳未満	906 億円 (▲186 億円)	21 循環器官用薬 (240 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (153 億円)	11 中枢神経系用薬 (106 億円)
75 歳以上	1,345 億円 (▲131 億円)	21 循環器官用薬 (313 億円)	11 中枢神経系用薬 (229 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (168 億円)

（４） 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,999 円（伸び率▲11.1%）で、最も高かったのは石川県（10,860 円（伸び率▲11.5%））、最も低かったのは佐賀県（7,637 円（伸び率▲20.9%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率▲5.6%）、最も低かったのは佐賀県（伸び率▲20.9%）であった。（→P.27~28）

《 後発医薬品の使用状況について 》

【後発医薬品薬剤料】 717 億円（伸び率：1.5%、伸び幅：11 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注)}	68.5%	+7.0%
薬剤料ベース	15.9%	+1.7%
後発品調剤率	69.0%	+4.2%
（参考）数量ベース（旧指標）	45.4%	+3.9%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.5%	+24.2 (15 歳以上 20 歳未満)	▲5.5 (60 以上 65 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.9%	16.9% (75 歳以上)	9.3% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	635 億円 (+4 億円)	21 循環器官用薬 (175 億円)	23 消化器官用薬 (104 億円)	11 中枢神経系用薬 (74 億円)
0 歳以上 5 歳未満	5.1 億円 (+0.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	44 アレルギー用薬 (1.2 億円)	61 抗生物質製剤 (1.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	11.4 億円 (+1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (4.8 億円)	61 抗生物質製剤 (2.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)
15 歳以上 65 歳未満	216 億円 (+4 億円)	21 循環器官用薬 (49 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)	23 消化器官用薬 (30 億円)
65 歳以上 75 歳未満	160 億円 (▲6 億円)	21 循環器官用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (26 億円)	33 血液・体液用薬 (18 億円)
75 歳以上	243 億円 (+4 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)	11 中枢神経系用薬 (31 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,068 円	1,442 円（北海道）	880 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.3%	+0.9%（秋田県）	▲8.6%（長野県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	68.5%	79.4%（沖縄県）	58.8%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	15.9%	20.3%（鹿児島県）	13.0%（徳島県）
後発医薬品調剤率	69.0%	78.8%（沖縄県）	62.3%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	45.4%	55.9%（沖縄県）	39.3%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 29 年 1 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。